平成二十三年五月二十四日(火)

第四一五回　史跡めぐり(バスツアー)

縄文・古墳・中世・近世・近代にわたる

盛沢山な埼玉県内歴史散策

NPO法人　越谷市郷土研究会

第四一五回　史跡めぐり（バスツアー）

縄文・古墳・中世・近世・近代にわたる

盛沢山な埼玉県内歴史散策

● 日　時　平成二十三年五月二十四日（火）雨天決行

● 集　合　午前八時　JR南越谷駅前（りそな銀行前）　弁当持参

● 参加費　四、五〇〇円　（交通費・入館料・保険料・資料代など）

（参加費の内、一〇〇円は東日本震災義援金）

● 案内者　篠原陸郎・山崎弘治・古谷京子

コース

南越谷駅前
‖
（外環道）　草加ＩＣ
（東関東道）所沢ＩＣ

● 水子貝塚（縄文時代の集落）
＜富士見市＞

● 福岡河岸（新河岸川の河港）
＜ふじみ野市＞

● 権現山古墳（県内最古級の古墳）
＜ふじみ野市＞

● 難波田城跡（武蔵武士の城）
＜富士見市＞

＜楽しいお弁当＞

● 平林寺（禅宗の名刹）
＜新座市＞

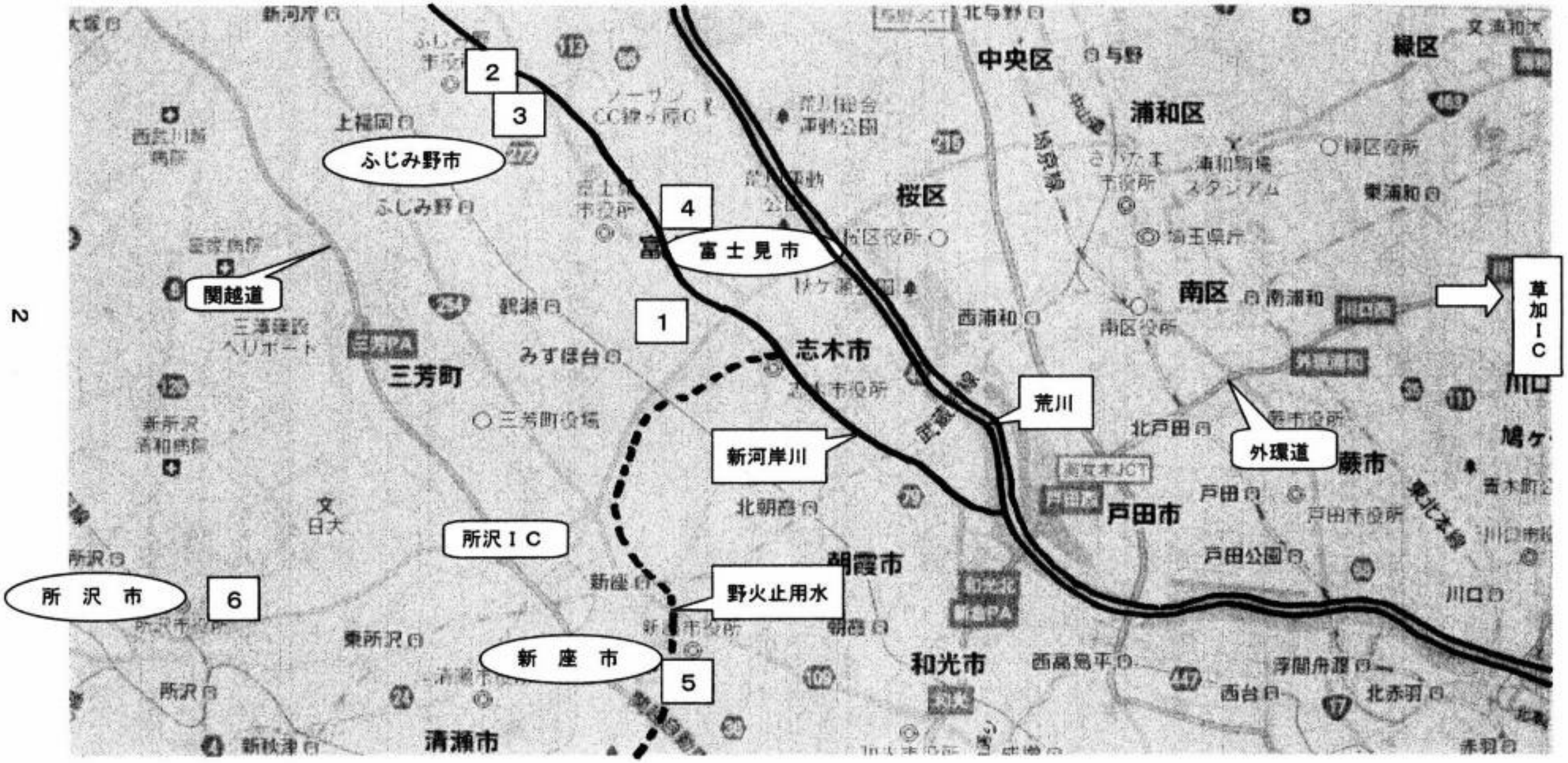
● 所沢航空記念公園
（飛行機飛んで１００年）
＜所沢市＞

所沢ＩＣ
‖
南越谷駅前帰着１８：３０予定

	富士見市	ふじみ野市	新座市	所沢市
人　口	１０万７千	１０万６千	１５万９千	３４万２千
市制施行	昭和４７年	平成１７年	昭和４５年	昭和２５年
市名由来	富士山がよく見えることに由来	上福岡市と入間郡大井町が合併 東武東上線ふじみ野駅から由来	奈良時代の郡名「新羅郡」から由来	市内を流れる「東川（あずまがわ）」を指している説が有力

歴史散策コース

1	水子貝塚	3	権現山古墳	5	平林寺
2	福岡河岸	4	難波田城跡	6	所沢航空記念公園



第四一五回　史跡めぐり（バスツアー）

縄文・古墳・中世・近世・近代にわたる

盛沢山な埼玉県内歴史散策

● 日　時　平成二十三年五月二十四日（火）雨天決行

● 集　合　午前八時　JR南越谷駅前（りそな銀行前）　弁当持参

● 参加費　四、五〇〇円　（交通費・入館料・保険料・資料代など）

（参加費の内、一〇〇円は東日本震災義援金）

● 案内者　篠原陸郎・山崎弘治・古谷京子

コース

南越谷駅前
‖
（外環道）　草加ＩＣ
（東関東道）所沢ＩＣ

● 水子貝塚（縄文時代の集落）
＜富士見市＞

● 福岡河岸（新河岸川の河港）
＜ふじみ野市＞

● 権現山古墳（県内最古級の古墳）
＜ふじみ野市＞

● 難波田城跡（武蔵武士の城）
＜富士見市＞

＜楽しいお弁当＞

● 平林寺（禅宗の名刹）
＜新座市＞

● 所沢航空記念公園
（飛行機飛んで１００年）
＜所沢市＞

所沢ＩＣ
‖
南越谷駅前帰着１８：３０予定

	富士見市	ふじみ野市	新座市	所沢市
人　口	１０万７千	１０万６千	１５万９千	３４万２千
市制施行	昭和４７年	平成１７年	昭和４５年	昭和２５年
市名由来	富士山がよく見えることに由来	上福岡市と入間郡大井町が合併 東武東上線ふじみ野駅から由来	奈良時代の郡名「新羅郡」から由来	市内を流れる「東川（あずまがわ）」を指している説が有力

○ 水子貝塚（みずこかいづか）（昭44国指定史跡）

●水子貝塚

・現在の富士見市に海はないが、今から約５５００年前、縄文時代前期には、現在の沖積地（富士見市東部の荒川低地）に海が入り込んでいた。その海の幸を求めて台地上（富士見市西部の武蔵野台地）には人々が集まりムラをつくった。そのムラが水子貝塚である。

・水子貝塚は昭和１２年に発見され、その後数回の発掘調査が行われている。その結果、貝が竪穴住居跡に捨てられて地点貝塚（小貝塚）を形成し、約６０ケ所の地点貝塚が直径約１６０ｍの環状に分布する集落跡であることが明らかになった。

・昭和４４年に国の史跡に指定され、遺跡の保存と史跡公園化を目的とし、平成６年に「縄文ふれあい広場　水子貝塚公園」となった。

●ドーナツ型に分布した竪穴住居

・水子貝塚では、約６０ケ所の地点貝塚（小貝塚）が確認されている。地点貝塚は、竪穴住居に貝が捨てられて形成されたものであるから、最低６０軒の家があったということになる。また貝がすてられていない竪穴住居などもあるであろうことから、水子貝塚全体では１００軒ぐらいの家があったと推定される。

・確認された地点貝塚は、ドーナツ型（環状）に分布しており、当時の家がドーナツ型に配置されていたことがわかる。中央部は広場として、共同作業や祭りにつかわれたのであろうか。

・ただ全てが同時に建っていたわけではない。一時期に5軒～１０軒の家が建っていたと考えられている。広場を中心に家の新築、立替を繰り返すうちに、結果的にドーナツ型になったということである。

「水子」という地名
水のあるところ。
水がわきでるところ。

竪穴住居

ドーナツ型（環状）に分布した地点貝塚

貝塚とは

貝塚からは、貝の他に魚や獣の骨、炭化した木の実の殻、こわれた土器や石器、身につけていたアクセサリーなど、当時の人々の生活をうかがえるさまざまなものが発見される。貝塚というのは、貝殻だけを捨てた場所ではない。貝塚が縄文人のゴミ捨て場といわれる理由である。

第１５号住居跡からは、手足を折り曲げた姿で埋葬（屈葬）された３０歳代の女性の人骨と、そのすぐ近くの柱穴からは埋葬された若いオス犬の骨が見つかっている。

貝殻などと一緒に人や犬を埋葬したのは貝などの自然の恵みに感謝し、かつ人や犬、貝などの再生を願ってのことであったのであろう。

自然と共に生き、自然のサイクルに自らをとけ込ませるようにして生きた縄文人にとって、貝塚とは単なるゴミ捨て場だったのではなく、縄文人の世界観を反映している場所なのかもしれない。

○ 福岡河岸（ふくおかかし）

●河岸とは

・江戸・明治時代、河川による交通・運輸のために設けられた船着き場。商品流通の盛行により各地に繁栄した。

・河岸は幕府より公認河岸とされ、河岸問屋株の設定、運上金の徴収など河岸の管理もきびしかった。

・また、河岸として栄えた場所としては、河川の合流や分岐点、陸の主要街道との交差点、城下町や門前町であった場所などがある。関宿（野田市）のように関所を併せ持った場所もある。

・大阪では浜・浜地、京都では川端という。

●福岡河岸

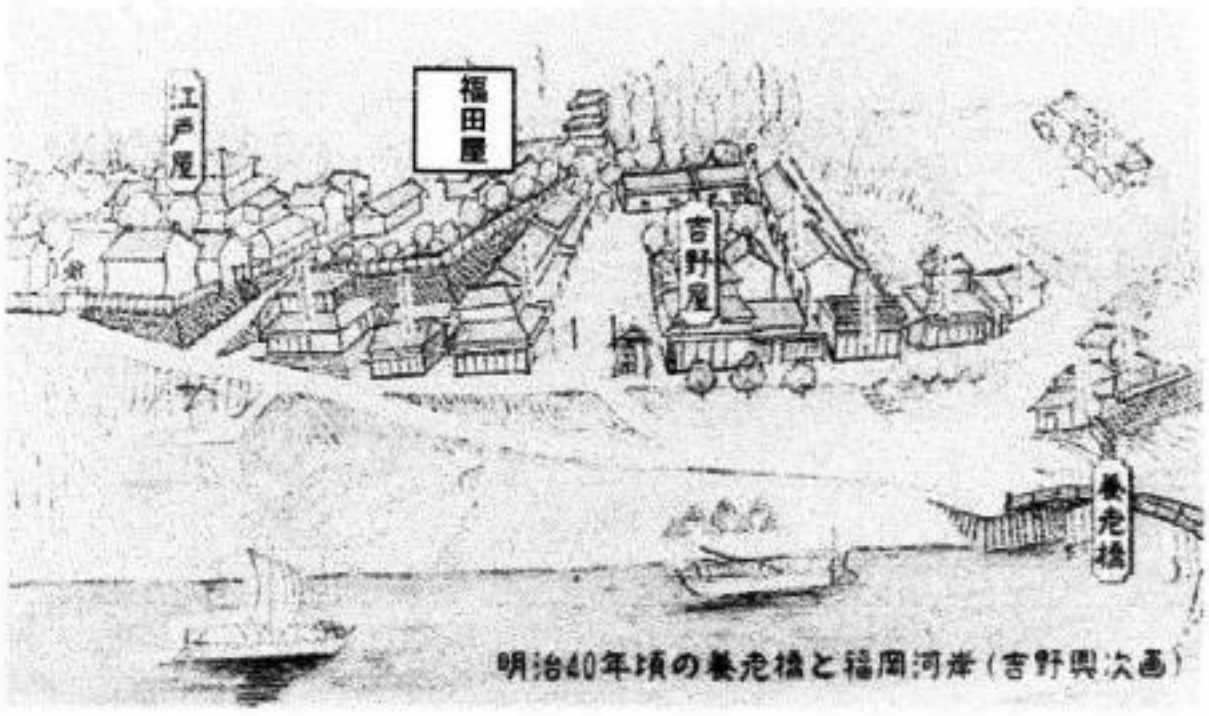
・福岡河岸は、享保１８（１７３３）年頃３軒の問屋が農業のかたわら回漕（かいそう）業を営んだことから河岸場（船着き場）が開設された。安永２年（１７７３）には、江戸幕府勘定奉行所から福岡河岸が公認された。

・その時の船問屋は、現市域の各地の出身で、吉野屋・江戸屋・富田門左衛門の３軒であった。これらの荷物の集積場としての福岡河岸の面積は、明治１２年で福岡村分１７０坪、中福岡村分１０５坪になっていた。

・富田門左衛門家の船問屋は、開設時から公認された頃迄で、そののち回漕業をやめた。そして江戸後期の天保２年（１８３１）、新たに船問屋福田屋（星野仙蔵）が開業し、その８年後、現在の土地を購入し主屋や土蔵を作り、回漕問屋として明治後期まで隆盛をきわめた。

・同河岸の３軒の船問屋は、いずれも荷船を保有し、船頭持ちの船とともに灰・肥料やサツマなどの農産物・荒物を運搬し手広く商売をしていた。明治９年、市域の福岡河岸船問屋や下福岡の船頭持ちの荷船が２９艘、そのうち１００石積み４艘、９０石２５艘である。

・各船問屋では、ノガタ（畑作地帯）からさつま芋などの農作物を、荷車や馬車に農家の荷主や馬方などが船問屋の土蔵に運び込む。蔵のなかの荷を、問屋の蔵蓄などが河岸場に舫（もや）っている荷船に積み込み、江戸へ回漕していた。問屋の店では、主人・大番頭・小僧など６人あまりが働き、多い日には３００人くらいの荷主や船頭など数多くの人々が出入し、客の対応・帳付けなどてんてこまいであった。という。



明治40年頃の養老橋と福岡河岸（吉野興次画）

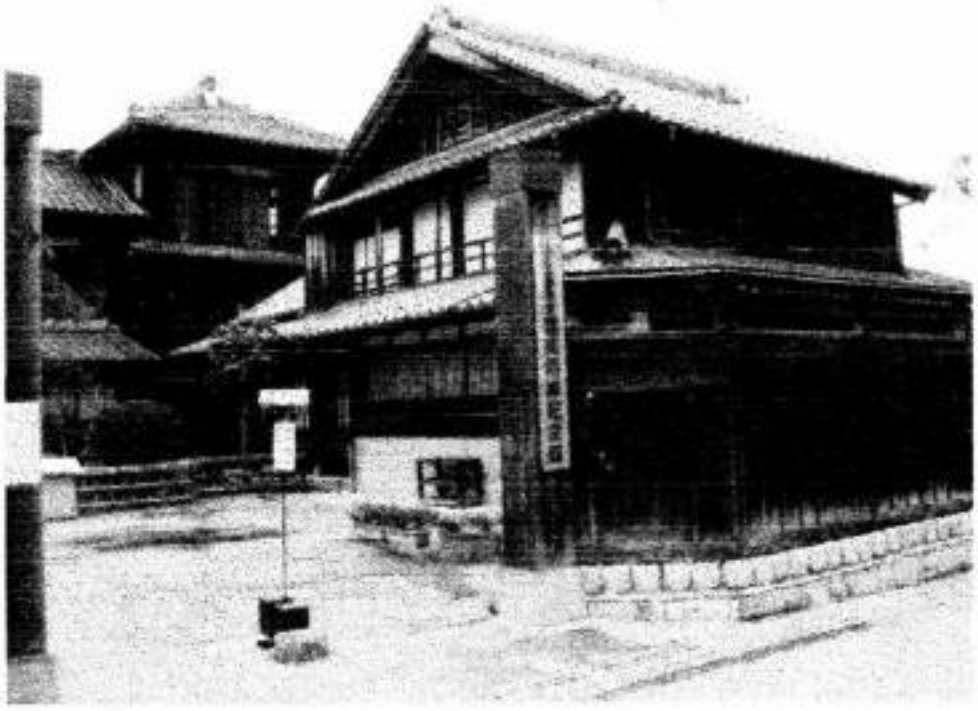
明治４０年頃の養老橋と福岡河岸（三軒の船問屋）

●回漕問屋（船問屋）　福田屋（市指定文化財）

・新河岸川舟運が本格的に開始されたのは、正保四年（１６４７）川越藩主松平伊豆守信綱の時代になってからと言う。福岡河岸は、享保１８年（１７３２）頃から吉野半兵衛・江戸屋三之助・富田門左衛門の三軒が回漕業を始めたのが起りで、安永２年（１７７３）にはこの３軒の回漕問屋が江戸幕府から公認された。天保２年（１８３１）富田門左衛門に変わって福田屋の７代目星野仙蔵が回漕業を始め、これが福田屋の始まりである。

・天保１０年（１８３９）、８代目仙蔵が鍛冶屋跡地（現在地）を買い取った。回漕業を行うかたわら肥料・薪などの仲買商も始め、三富【三富新田。江戸時代河越藩主柳沢吉保によって開発された武蔵野台地の新田。上富（現三芳町）・中富・下富（現所沢市）の総称】や武蔵野開発地域の農業生産の発達に伴って取引が増大した。明治初期頃、再建築された主屋を店として使い、荒物・酒の商いや製茶・機織などを加え大いに繁昌したが回漕業（船問屋）は明治末年に至って廃業した。

明治初期～中期頃の建築「福田屋」



・明治３０年代頃に離れ（三階建）を建てた１０代星野仙蔵は自宅に剣道場を新築して「福岡明信館」と称し、明治３５年には剣聖と呼ばれる高野佐三郎より小野派一刀流の免許皆伝を受ける。一方、仙蔵は政治家の道を歩み、衆議院議員に当選して国政に参加する。そして大正３年の東上鉄道（現在の東武東上線）の開通に至るまで中心的な役割を果たす。

●河川整備

・江戸城を拠点とした徳川家康は、江戸という場所が、荒川・利根川などの大河川が流入した低湿地帯でもあることから、治水対策と水運の整備に着手した。

・牛馬をつかった輸送に比べて、船はその数十倍もの積載が可能な上に、運賃は数倍という安さから、城米・年貢米等の物資輸送を舟運に委ねるようになった。そこで慶長年間（１５９６～１６１４）には、塩を運ぶために江戸と行徳（市川市）を結んだ小名木川・船堀川の開削など、関東諸河川改修の大工事を行い、領主層の主導で川の湊である「河岸」を設立した。県内でも慶長４年（１５９９）権現堂河岸（幸手市）、慶長１７年（１６１２）に八町河岸（上里町）が利根川筋に設けられたと伝えられている。

・文禄３（１５９４）から承応３年（１６５４）にかけてたびたび行なわれた利根川の東遷、寛永６年（１６２９）に着手した荒川の西遷などで、江戸に「船」で直航できる舟運路線を成立させた。

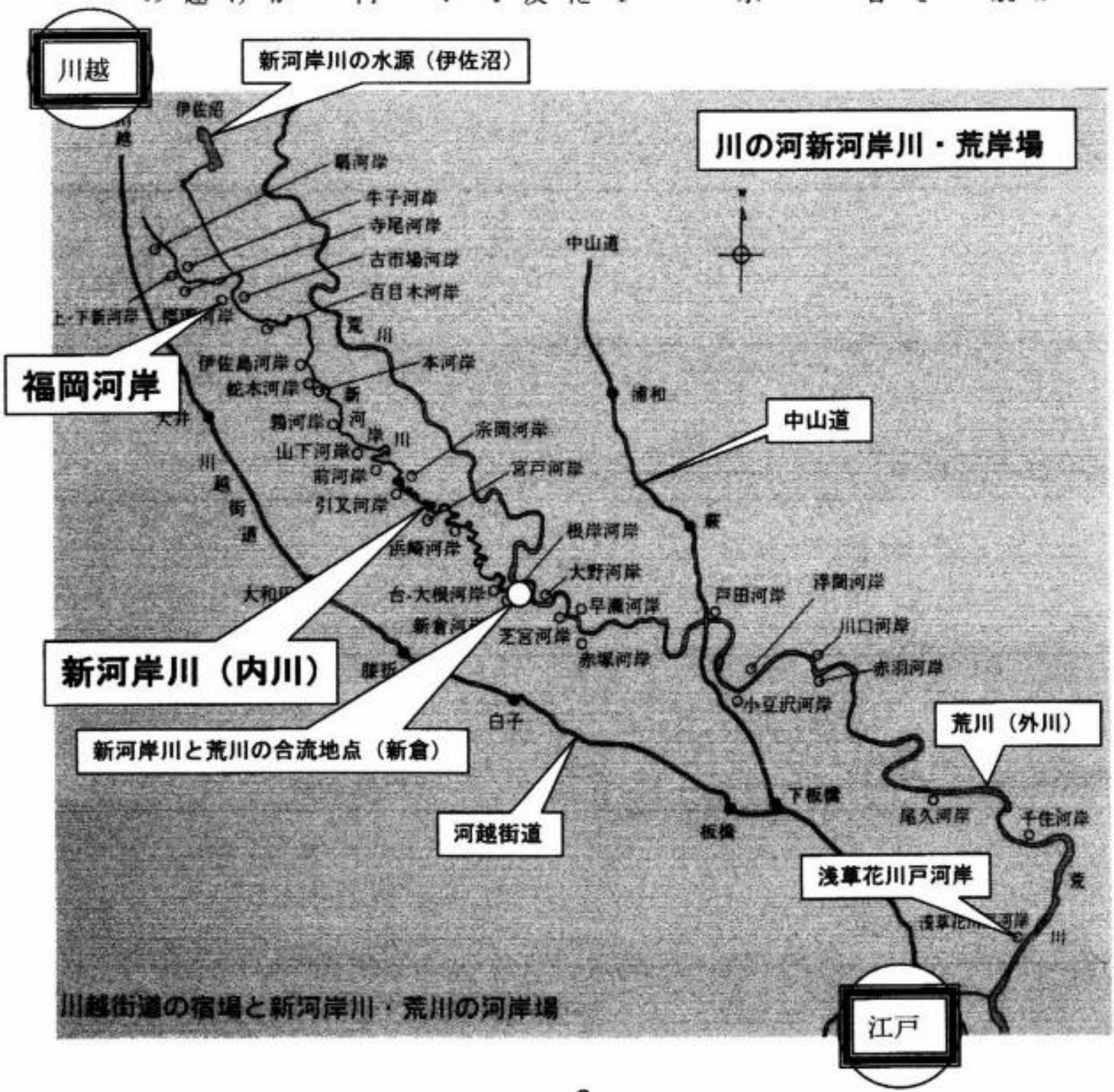
・特に参勤交代による江戸への居住義務化は、江戸の人口を増大させる原因にもなり、領主の年貢米・御用物資等を輸送するために各所に河岸場が設置され、江戸への航路が設定されていった。

●新河岸川と舟運

・新河岸川は、荒川本流の新倉（現和光市）から分かれた支流で、長さ8里の短い河川であり、舟運の航路としては新河岸から浅草花川戸まで約120㌔ほどであった。荒川が外川で、新河岸川は内川、そして別名「九十九曲がり」とも言われ、荒川との合流地点「川の口」（新倉）まで水量保持のため数多くの蛇行をなしていた。新河岸川の流路や川幅は一定でなく、川幅は約23mから約150m余り、水深は浅い所で90㎝、深い所で約4．5mになり、流れはおだやかで水はきれいであった。

・新河岸川の始りは、荒川と同じ頃の寛永15年（1638）、川越藩主堀田正盛の命により、全焼した川越東照宮（仙波東照宮）の再建資材を寺尾の五反田に荷揚げしたことから始る。正保4年（1647）には、藩主松平伊豆守信綱が本格的に図り大いに発展した。これより昭和初期まで約300年間、江戸と川越地方を結ぶ舟運の水路として、武蔵一円の物資輸送に重要な役割を果たした。

・この新河岸川の右岸に多く、20数ヶ所の河岸場が設置され、最盛期は、江戸後期から明治後期にかけてで、荷物のほか乗客を扱う早船も運行され、川越夜船の名で賑わった。しかし大正3年の東上鉄道の開通、大正10年からの河川改修工事などにより、衰退し、昭和11年頃には完全に衰退した。



川越街道の宿場と新河岸川・荒川の河岸場

○ 権現山古墳群（ごんげんやまこふんぐん）（平14県指定史跡）

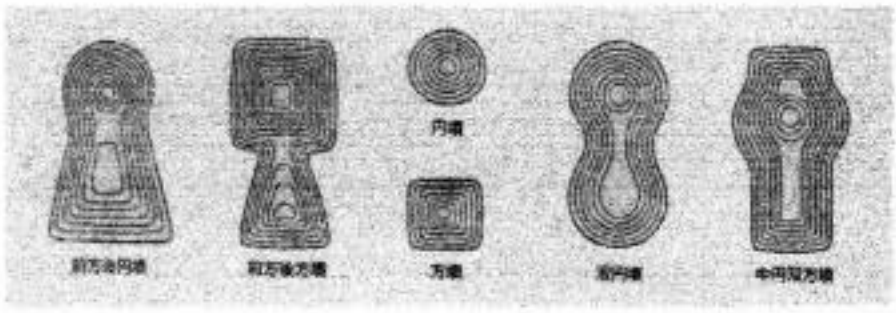
●古墳のかたち

・古墳は、3世紀から7世紀までつくられ、その形には前方後円墳・前方後方墳・円墳・方墳などがある。そのなかで最も特徴的なものが前方後円墳である。それは大和にあっては大王級の墓や、全国各地では首長クラスの古墳で数多くつくられた。

・前方後円墳に似た形の前方後方墳は、九州地方から東北地方中部地域まで広範囲に分布している。ここ権現山古墳群2号墳は古墳時代初期の前方後円墳の一例として注目されている。

・また前方後方墳の成立には東海地方の影響をうかがうことができる。

円墳

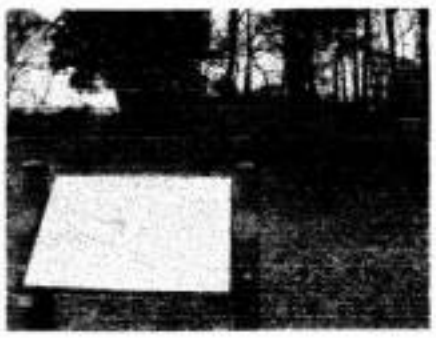


前方後円墳　前方後方墳　方墳　中円双方墳　双円墳

●権現山古墳群

・崖下に新河岸川を臨むここ16mの高台には古くから、徳川家康（東照大権現）が鷹狩りの際に古墳であるとは知らず休息したと伝わる権現山が雑木林の中にたたずんでいる。昭和57年頃から8回にわたって調査した結果、古墳時代初期の前方後方墳1基と11基の方墳が明らかになった。

・古墳の埋葬施設は7号墳以外は未調査のため、内容はよく分らないが、おそらく墳丘の中心に長方形の穴を掘って木棺を埋葬したと考えられる。死者を埋葬する一連の作業は村人が力を合せておこなったのであろう。

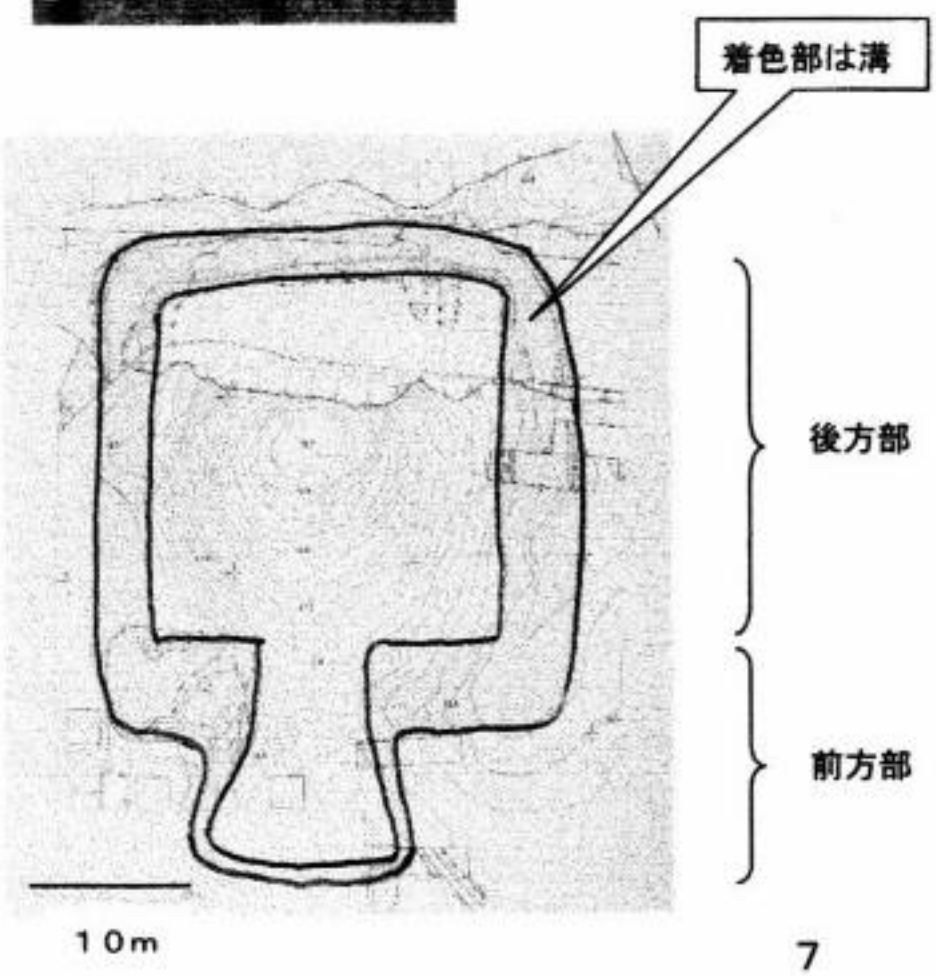


●前方後方墳（2号墳）

・古墳群のなかでも最も大きく、際立った姿を見せているのは、この周辺地域一体をまとめた首長の墓と考えられる。墳丘の全長は32m、後方部は一辺20m四方、これに続く前方部は12mである。

・墳丘の周りには溝がめぐっていて、最も広くて5m80㎝、遺体を埋葬した後方部には、高さ2mほどの盛り土が施されており、前方部にはほとんど盛り土はされていない。

・墳丘の構築方法は強固ではなく、前方部の長さが短く盛り土が低いようすは、初期古墳の特徴を示していて、埼玉県内最古級の古墳であり、また数は少ない。



○ 難波田城公園（なんばたじょう）（昭36県指定史跡）

●難波田城跡

・荒川と新河岸川にはさまれた富士見市南畑（なんばた）に築かれた難波田氏の城館と伝えられる。

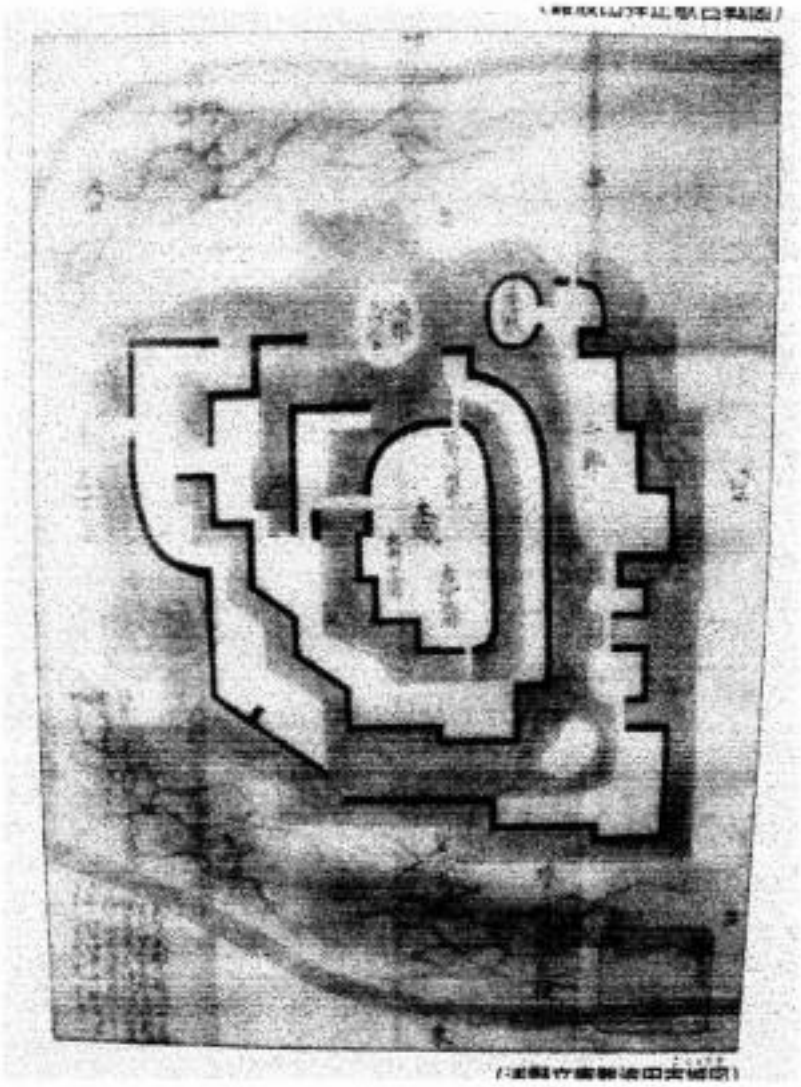
・江戸時代の古絵図によると、本丸（城の中心部）を中心に三重に水掘が巡る平城で、総面積は50，000㎡以上に達し、発掘調査により堀などが確認された。

・築城時期は不明であるが、天文5年（1546）年以降は北条氏の支城の一つとなり、その家臣上田氏が入城した。

・天正18年（1590）北条氏滅亡により廃城。江戸時代になると、十玉院（じゅうぎょくいん）という修験寺院が置かれた。

・現在は、一部が難波田城公園として復元整備されている。

難波田城図　〔広島市立中央図書館所蔵 浅野文庫「諸国古城之図」〕



●武蔵武士（むさしぶし）（平11・田代修埼玉大学教授）

武蔵国を基盤に成立し成長、発展していった武士たちのことを武蔵武士と呼び、いくつかの類型に区分できる。

1　畠山氏、河越氏に代表される秩父氏一族から分れた豪族的武士。

2　**武蔵七党**に属する中小規模の武士。

・**村山党**・横山党・丹党・猪俣党・西党・児玉党・野与党

・「党」とは血縁的なつながりを通して、ゆるやかな同族的な結びつきをもっている集団。

3　前記1，2に属さない熊谷氏・比企氏などの武士。

●難波田氏

鎌倉時代

・難波田氏は、金子高範（たかのり）を祖とする一族といわれている。

・金子氏は平安時代末期に成立した武士団「武蔵七党」の一つ村山党に属する一族で、保元（ほうげん）（1156）・平治（へいじ）（1159）の乱などで活躍している。

・高範は鎌倉時代始めに幕府が朝廷と戦った承久（じょうきゅう）の乱（1221）の乱に幕府側として参戦して、討ち死にした。

・その恩賞として難波田（南畑）の地がその子孫に与えられたようで、系図では高範の子の小太郎から「難波田」を名乗ったとされている。そしてその子孫がこの地に居住するようになった。

南北朝時代

・観応（かんのう）元年（1350）、室町幕府の将軍足利尊氏とその弟直義（ただよし）の勢力争い（観応の擾乱（じょうらん））がおこり、打破られた直義軍の難波田九郎三郎も討ち取られる。この戦いを「羽根倉（はねくら）合戦」という。応永7年（1400）ころ、難波田氏は難波田の領地を没収されたようである。

戦国時代

・関東地方の戦国時代の前半は、扇谷上杉氏と北条氏との争いを中心に展開する。武蔵国の支配を巡る両者の戦いは２３年間に及んだ。その間、難波田善銀（正直）は扇谷上杉氏の重臣として一連の戦いの中心人物として活躍している。

・善銀は天文２年（１５３３）に扇谷上杉軍の大将として江戸・品川に出陣し、妙国寺に制札を発給している。また、天文６年には、深大寺城（調布市）を修復したと伝えられている。さらに松山城の城代をつとめている。

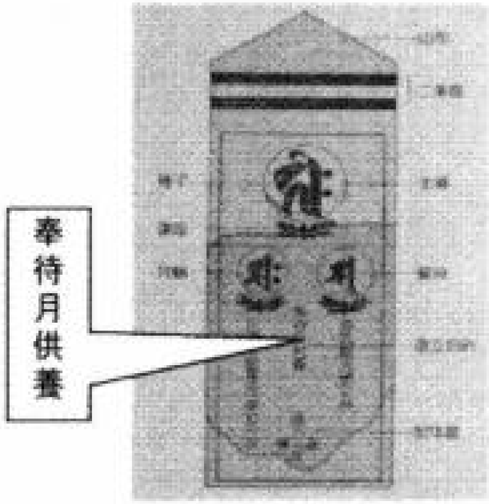
・天文１５年（１５４６）の川越夜戦で善銀は討ち死にし、扇谷上杉氏は滅びた。

・その後、難波田氏の一族は北条氏の家臣となり、棟岡（志木市）や池辺（川越市）に領地を与えられた。

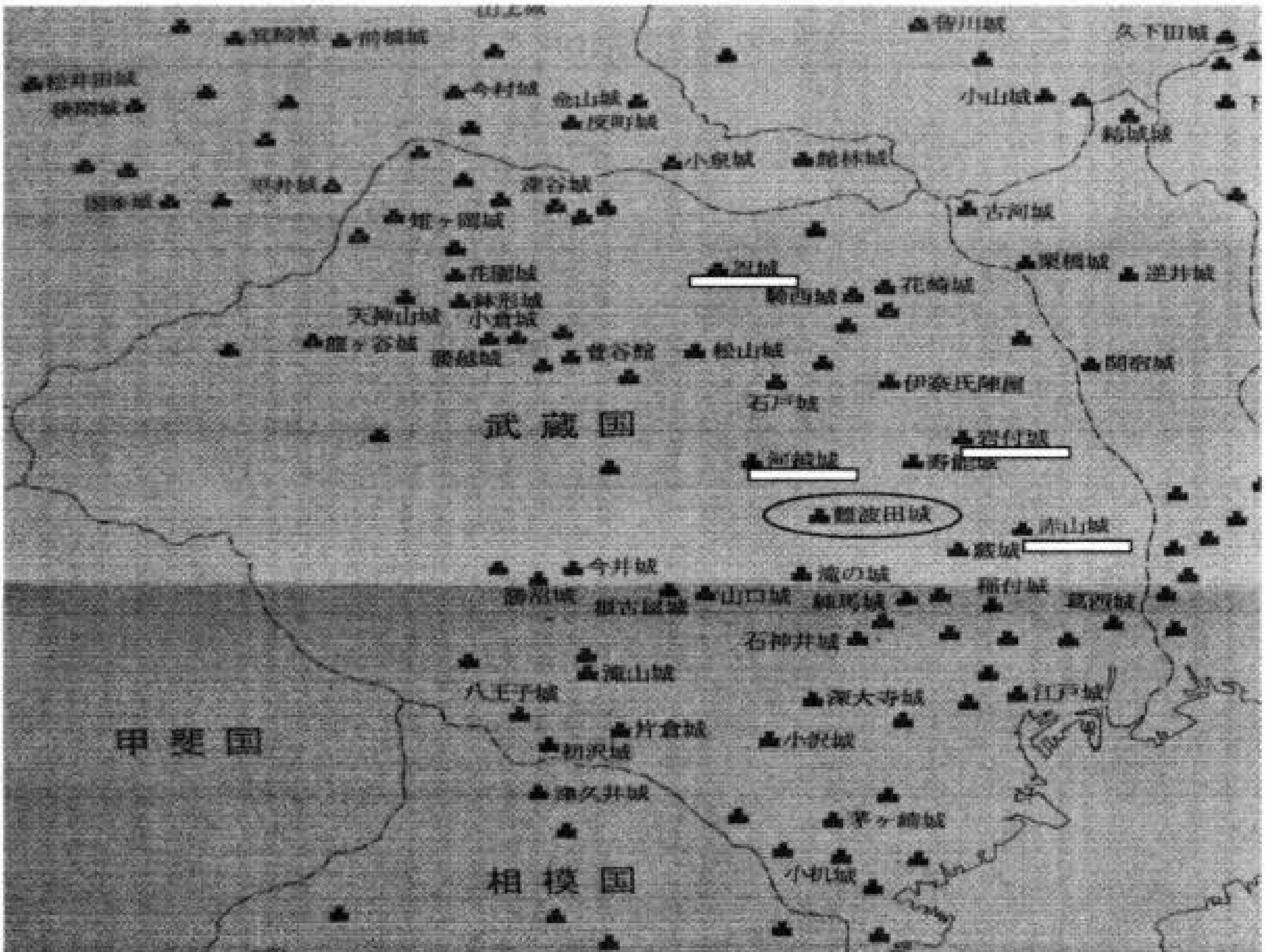
・富士見市内の一部の難波田氏のかつての領地は、後北条氏の家臣上田左近の知行地となった。

＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊＊

日本最古の「月待板碑」（市指定）
嘉吉元年（１４４１）の年号が記されている。
月待（日待）
特定の月齢の日に講の仲間が集まり、供物を供え月の出を待ちながら飲食をともにし、月を拝む



武蔵国の城（難波田城資料館より）



○ 平林寺（平林寺縁起）

●関東の名刹「平林寺」

・平林寺は武蔵野の一角、野火止台地に約13万坪の境内地を有する禅寺。正式に金鳳山平林禅寺といい、臨済宗妙心寺派の別格本山。

・平林寺の縁起をたどると、南北朝時代の永和元年（1375）武蔵国騎西郡渋江郷金重村（さいたま市岩槻区）に、太田備中守（太田道灌の父）によって建てられたことに始る。開山は石室善玖禅師。その後、天正18年（1590）、豊臣秀吉の関東経略による岩槻城攻めの際、兵火によって伽藍の大半を焼失した。翌年江戸入りした徳川家康は、鷹狩りで岩槻を訪れた際立ち寄り、騎西郡内50石を寄進している。

・その後、家康の家臣で大檀那である大河内氏の信綱が松平家の養子となり、大河内松平家の霊廟となった。そして幕府の老中で河越藩主の信綱の遺言により、寛文3年（1663）その子輝綱は江戸と川越の中間にある所領、野火止の原野に伽藍及び墓石にいたるまで移築した。

・元禄7年（1694）、輝綱の子で川越藩主松平信輝は、下総国古河に転封となったため、平林寺は一時、のちに川越藩主となる柳沢吉保の支配地となった。

・10年後の宝永元年（1704）、柳沢吉保は甲府に転封となり、川越には秋元喬知が転入した。その時野火止領五ケ村は川越領とはならず、上野国高崎藩主松平輝貞に与えられた。しかしながら将軍徳川綱吉からは大河内松平家の廟所は安堵され、再び平林寺は大河内松平家の支配するところとなり、明治の世を迎え、現在に至っている。

・近年、武蔵野といえば平林寺と言われるほど武蔵野の面影を残す、創建以来630年の永きに渡る、禅寺「関東の名刹」である。

●総門（県指定有形文化財）

総門に立つと、総門・山門・仏殿・中門・本堂と一直線に禅宗様式の伽藍が並ぶ。川越街道からの参道に面する総門は、茅葺の切妻造りで、正保5年（1648）、石川丈山筆の「金鳳山」の山号額がある。

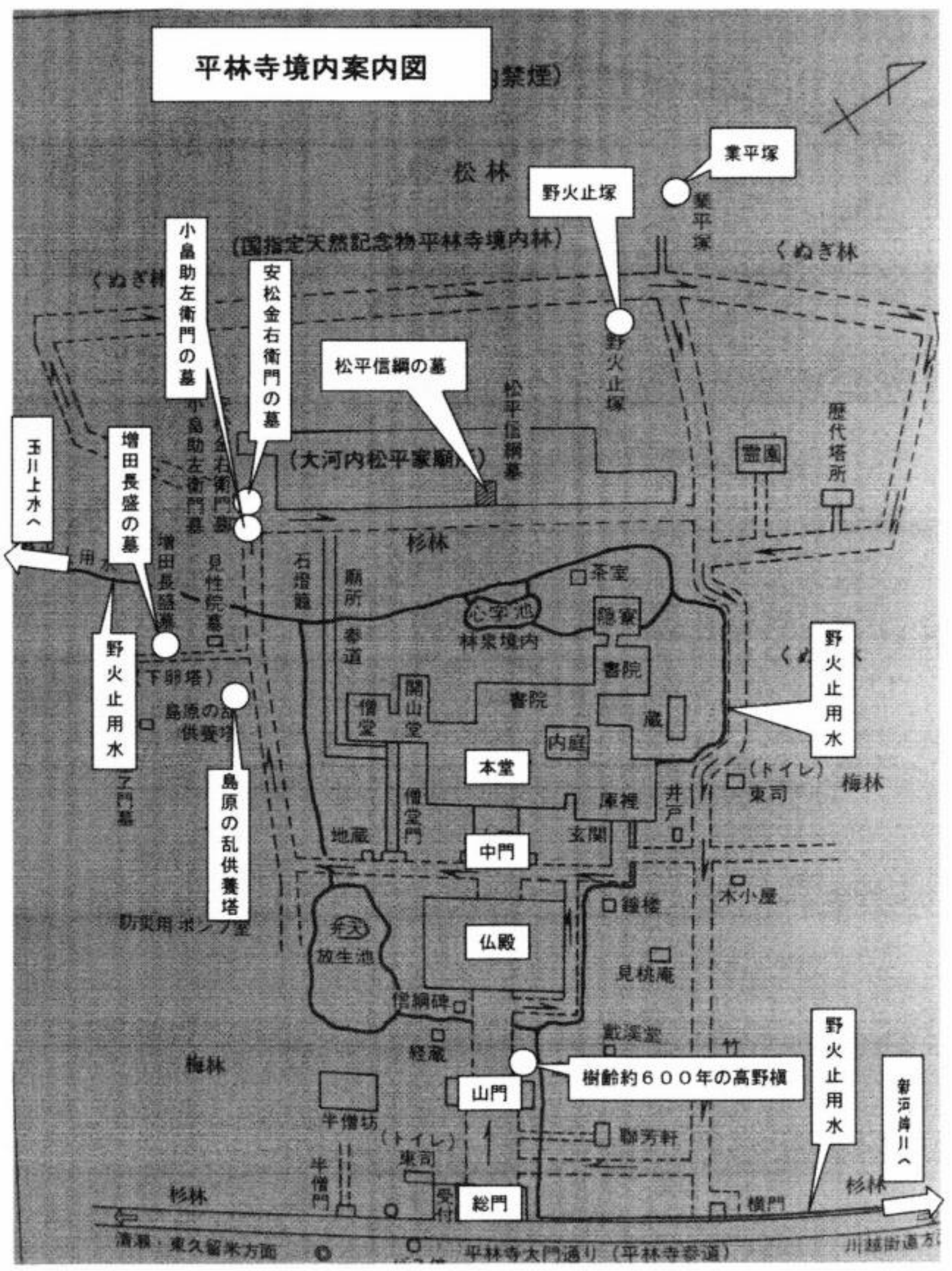
●山門（県指定有形文化財）

平林寺のシンボルともいえる山門は、茅葺の重層入母屋造りで、石川丈山筆の扁額「凌霄閣」（凌霄花＝ノウゼンカズラの漢名）を掲げている。

この山門は寛文3年（1663）、岩槻平林寺の山門を野火止に解体移築補修した350年前の建築物である。

（火頭窓とも書き、唐様の書院窓）

茅葺・入母屋造りの山門


平林寺境内案内図
禁煙)
松林
業平塚
野火止塚
(国指定天然記念物平林寺境内林)
くぬぎ林
小島助左衛門の墓
安松金右衛門の墓
松平信綱の墓
(大河内松平家廟所)
松平信綱墓
歴代塔所
霊園
玉川上水へ
増田長盛の墓
杉林
茶室
心字池
隠寮
林業境内
書院
奉道
開山堂
僧堂
内庭
蔵
本堂
(トイレ)
東司
梅林
庫裡
井戸
玄関
中門
地蔵
鐘楼
木小屋
防災用ポンプ室
放生池
仏殿
見桃庵
僧綱碑
戴溪堂
竹
経蔵
樹齢約６００年の高野槇
山門
半僧坊
聊芳軒
総門
横門
清瀬・東久留米方面
平林寺大門通り（平林寺参道）
川越街道方

●仏殿（県指定有形文化財）

山門と同じく岩槻から移築された禅宗様式を伝える唐様の建物で、間口6間、奥行5間半、茅葺単層入母屋造りである。正面は桟戸（裏に桟を取り付けた頑丈な戸）で、花頭窓（火頭窓とも書き、唐様の書院窓）を左右および東西に配した質素な造りである。鴨居には「無形元寂寥」（かたち無くしてもと寂寥たり）の扁額を掲げている。本尊は釈迦如来座像。この本尊は天正18年（1590）に岩槻城が炎上した際に持ち出され、焼失を免れたと言う。

●中門（県指定有形文化財）

茅葺き切妻造りの四脚門

●本堂（県指定有形文化財）

本堂は庫裏（寺務所・台所、あるいは住職の居所）とともに慶応3年（1867）の火災で焼失したが、明治13年に旧堂に近い形で再建された。堂内の正面手前に正保3年（1646）石川丈山筆の「平林禅師」の寺号額が掲げられている。

また本堂中央奥に、松平信輝が元禄4年（1691）に寄進した本尊釈迦如来座像が祀られ、正面の戸帳（仏像などを安置した厨子の上にかける覆い）に描かれた家紋は、松平伊豆守信綱の家紋「三蝶の内十六葉菊」で別名「伊豆蝶」とも呼ばれている。

●「島原の乱」の供養塔

寛永14年（1637）から翌年にかけて起った「島原の乱」は、老中松平信綱の十数万の包囲軍により秤量攻めにあい陥落した。それから200年がすぎた文久3年（1863）に、犠牲になった士卒や庶民のため、松平家が遠忌供養（13忌以上の遠い年忌）を行った際、松平信綱の後裔の三河国吉田藩松平家の家来、大嶋左源太が建立した。松平家の廟所の近くにあるのは、意味ありげである。

●増田長盛の墓

増田右衛門尉長盛は豊臣秀吉に仕えた豊臣五奉行（秀吉が政務を分掌させるために置いた五奉行＝浅野長政・石田光成・長束正家・前田玄以・増田長盛）の一人。文禄・慶長の役（秀吉による朝鮮侵略戦争）により大和郡山城主となり、20万石を受領したが、関が原の戦いに敗れ、所領没収の上、高野山に追放された。のちに岩槻城主に預けられたが、元和元年（1615）自刃した。歳71歳。岩槻の平林寺に葬られ、野火止移転に際し、改葬された。

「島原の乱」供養塔

増田長盛の墓

○ 松平信綱（まつだいらのぶつな）と平林寺

●松平信綱の経歴

・信綱の祖父秀綱（ひでつな）は、大河内家の家督を継いで徳川家康に仕えたのち、幕府の関東郡代伊奈（いなけ）家の家老を務めた家柄である。

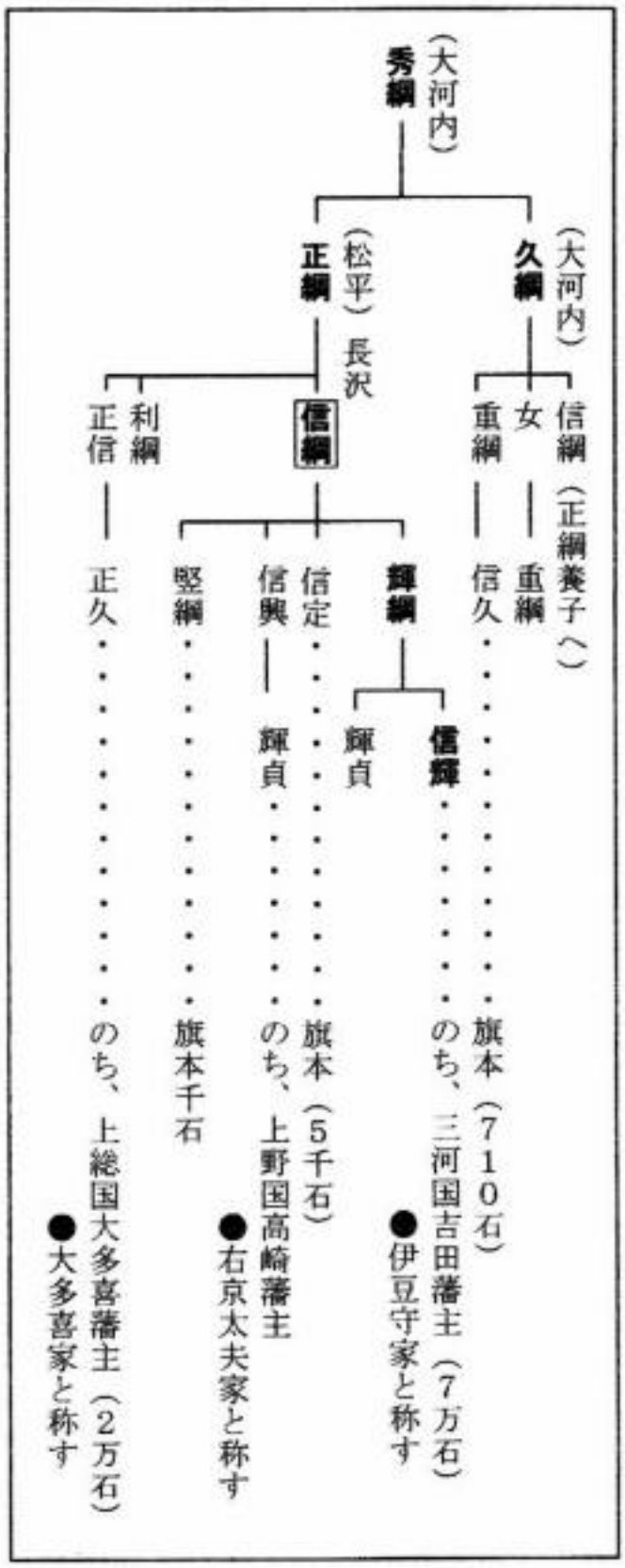
・信綱の父久綱（ひさつな）は関東の天領（羽生領）で代官を務め、慶長元年（1596）に信綱は長男として生まれた。

・信綱の叔父正綱（まさつな）は、家康の命により徳川氏の傍系一門「長沢松平」氏を継ぎ松平姓を名乗り、家康に仕え幕府の勘定頭に進み、寛永2年（1625）、相模国2万2千石の城主となった。信綱はこの叔父である正綱の養子となって長沢松平を継いだ。

＊長沢松平

三河国長沢を本拠とした十八家ある松平家のひとつ。
大河内氏から正綱が養子となる。
信綱が松平伊豆守家として大成させたため、長沢松平家とは大河内松平家を指す場合が多いようである。

大河内松平家系図

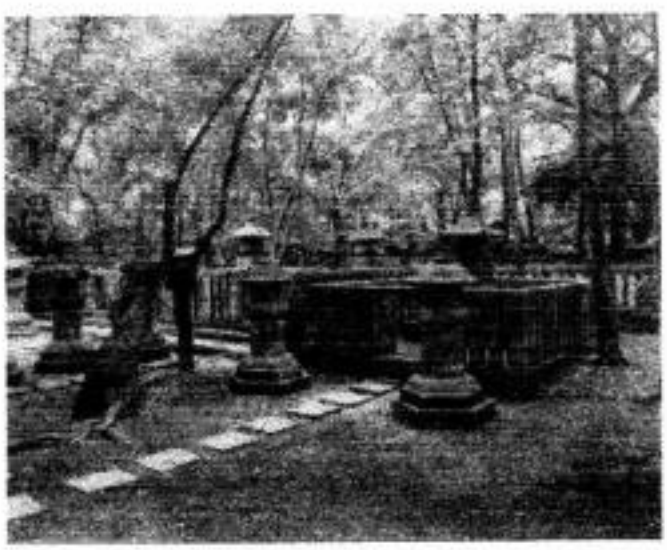


・信綱は慶長9年（1604）その明敏な頭脳を見込まれて、家光の小姓となり、**伊豆守**（いずのかみ）と称し寛永4年（1627）1万石の大名に列し、老中へと進み、武蔵国**忍藩**（おしはん）3万石に、そして正保4年（1647）には川越7万5千石の城主になった。

・信綱は、老中として幕政に手腕を発揮すると同時に、川越藩政においても、新河岸川の舟運、武蔵野新田開発、野火止用水の開削など見るべきものがある。のちに「知恵伊豆」と称される。

・信綱は、元和元年（1620）二十四歳の時、養父正綱に実子正信が生まれたので松平から別に家を興し、「大河内松平」氏を名乗った。

・平林寺が大河内家の廟所となったのは、文禄4年（1595）、信綱の祖父秀綱の祖母が、岩槻の平林寺に埋葬されたのが初めであり、歴代の墓が一同に残っているのはめずらしい。また信綱の墓をみて高浜虚子は「知恵伊豆の墓に俳句が詣りけり」と詠じている。寛文2年（1662）逝去。享年67歳。



大内松平家廟所

○ 野火止用水（のびどめようすい）と平林寺領

●野火止用水

・野火止用水は、立川市の玉川上水（小平監視所）から新座市平林寺を経て志木市の新河岸川に至る全長約２４ kmの用水路。
開削の歴史は古く、承応（じょうおう）４年（１６５５）、幕府老中松平伊豆守信綱によって開削された用水路。

●開削の歴史

・徳川家康が江戸城へ入府後、約５０年たち江戸の人口増加による飲料水不足が問題となり、承応２年多摩川から水を引く玉川上水が、総奉行は幕府老中松平伊豆守信綱・水道奉行は関東郡代伊奈半十郎・玉川兄弟及び松平信綱の家臣安松金右衛門・小畠助左衛門らによって引かれ、翌年１６５４年完成した。

・その功績により川越藩主松平伊豆守信綱は、関東ローム層の乾燥して生活用水に難渋していた領内の野火止に玉川上水の分水が許可され、承応４年（１６５５）野火止用水が開通した。これにより玉川上水の水は７割が江戸へ、３割が川越領野火止に流れることに成った。

・現代に至り紆余曲折があったが、歴史的にも貴重な野火止用水をよみがえらせようとのことから、「清流復活事業」を実施し、昭和５９年に野火止用水に流水がよみがえり現在に至っている。

・平林寺境内に流れる野火止用水は、平林寺の武蔵野の面影ともあいまって、四季折々の風情を醸（かも）し出している。

・野火止用水開削に尽力した松平伊豆守信綱に感謝の意味で、伊豆守にあやかって、「伊豆殿掘」と呼び、新座市立野寺小学校の校歌には、「めぐみの水よ　伊豆掘よ」という歌詞があったり、他校では、「智慧伊豆のながれを汲んで」などと歌われている。

「野火止（のびどめ）」の語源と「野火止塚（のびどめづか）」

今からおよそ１千年も前の昔、新座市野火止辺りを治めていたのは、藤原長勝という豪族で、その館は現在の志木市に在ったと伝えられている。
ある日、長勝は旧知の間柄である在原業平（伊勢物語の主人公）を自分の館に招き大いにもてなした。業平はここに足を止めているうちに長勝の娘に魅かれ、娘も業平に魅かれ、一緒になる約束をした。しかし娘はすでに嫁入りの話があり、父親は許さなかった。そこで二人はある夜、手に手をとって館を逃げ出した。二人が逃げた先は４０里四方もある野原のため、火をつけて探すことになり、追っ手が片山の橋（新座市片山）の辺りで火をつけると、火は勢いよく燃え広がっていった。
我が身の危険を感じた娘は「ああ！どうか今日だけは武蔵野の野原を焼かないでください。主人と私が身を隠していますから」と歌った。
すると姫の願いが天に通じたか、不思議なことに今まで燃えさかっていた野火があれよあれよという間に消えてしまった。この野火が止まったところが野火止塚だったといわれている。
野火止の地名はこの野火止塚に由来するそうである。

平林寺境内を流れる野火止用水

○　所沢航空記念公園

●日本の航空発祥の地

・明治４４年（１９１１）に徳川好敏らが、日本で初飛行した日本初の飛行場は、大戦後米軍に接収され、昭和４６年に返還されたあと、昭和５３年に埼玉県立所沢航空記念公園として開園され、今年で１００年になる。

・園内約５０ヘクタールには、テニス場・野球場・野外ステージ・日本庭園・レストハウスなど、また自然豊かな四季を通じた花木が楽しめる。そして航空発祥記念館では国内外の飛行機の展示や映画上映が行われている。

所沢航空記念公園の沿革

明治４４年	日本初の飛行場として開設される、徳川好敏・日野熊蔵ら初飛行に成功。
大正　元年	大正天皇所沢飛行場来場
大正　８年	フランス航空教育団フォール大佐ら来日陸軍航空部が設置され、所沢に航空学校が設置される。
昭和２０年	第二次世界大戦終結。米軍に接収される。
昭和４２年	基地全面返還運動市民大行進が行われる。
昭和４６年	米軍所沢基地の６割が返還される。
昭和５３年	埼玉県立所沢航空記念公園が開園される。
昭和６２年	航空公園駅開設
平成　５年	所沢航空発祥記念館開設。
平成２３年	飛行場開設１００周年。

世界初飛行	明治３６年ライト兄弟（米）が人類初の有人動力飛行に成功。最大時速４８ｋｍ/時。
日本初飛行	明治４４年徳川好敏（徳川御三卿清水家の当主、陸軍中将、男爵）・日野熊蔵が成功。

参考資料

・「水子貝塚」　富士見市立水子貝塚資料館
・「新河岸川舟運の川舟とその周辺」　ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
・「川越街道と新河岸川」　ふじみ野市立大井郷土資料館
　～江戸と小江戸を結ぶ2つの道～
・「新河岸川(舟運)の福岡・古市場河岸」　ふじみ野市教育委員会
・「ふじみ野市立福岡河岸記念館パンフ」　ふじみ野市立上福岡歴史民俗資料館
・「権現山古墳群」　ふじみ野市教育委員会
・「古墳辞典」　東京堂出版
・「常設展示図録」　富士見市立難波田城資料館
・「難波田城だより」　富士見市立難波田城資料館
・「板碑と城館」　入間東部地区文化財保護連絡協議会
・「ふじみ野市観光ガイドマップ」　ふじみ野市
・「平林寺」　㈱さきたま出版会
・「平林寺パンフ」　平林寺
・「所沢航空発祥記念館パンフ」　所沢航空発祥記念館